編集後記

■2002 年 4 月から 16 年の長きにわたってご指導を頂いた山口博司先生が定年をお迎えになり、同時に部長を退任された。就任された年は、部始まって以来新入部員が 0 という OB らも経験したことのない非常事態で、部員数は四年生３名、三年、二年は各２名の計７名で、部存亡の危機に直面した年であった。翌年の新歓時に先生は TV で人気番組であった”鳥人間コンテスト”にトライを喧伝して 10 名の部員獲得に成功された。航空部 OB の部長が二代続いた後、部出身ではない部長であるから打てた奇手であった。受継いできた航空部の DNA とは異なる部員を受け入れることに、OB 達の中には強い抵抗感を抱く向きもあったが、この決断によって存亡の危機を乗り越えることが出来たのは、狭い視野に囚われない先生のご英断であった。その後は、関西・東海で結果を出して全国に進出した時期が数年続いたものの、新鋭機 W28 の導入にも拘わらず技量の向上と戦績の結果を図ることが出来ず、その上度重なる部内の不祥事の発生、その後の混乱収拾などから、先生には部長として「良い思い」をして頂くことが一度もなく、ご心痛ばかりお掛けした 16 年間であった。OB の一員として深く感謝すると共にお詫びするしかない。

■そして今年度から宮本先生が部長を引き継いで下さった。奇しくも部の現状は山口先生が部長に就任された時と同じ状況下にある。四年生 5 名、三年生 1 名、二年生 2 名、計 8 名の現状に新人が何名入部するかにかかっている。ただ、16 年前と異なるのは、遠隔地に居住している監督を補佐する目的で、関西在住の OB 数名が新たにコーチングスタッフとして、日常の部活を指導する体制を作り、機能し始めていることである。この原稿を書いている今日が、新歓の最終日である。本誌がお手元に届く頃には、フレッシュマンが確定しているはずである。「春は出会いと別れ」、言い古された表現であるが、山口先生とお別れし、宮本先生をお迎えした。5 名の卒業生を送り出し、さて何名の仲間を迎えることが出来るのか期待して待つしかない。一抹の寂しさの後に明るい期待が膨らむ、この季節はそんな時期である。

■近年、退部者が多いように思う。HP の［member］が更新されると、「エッ!」と見直す程減っていることに驚く。それも上級生になってからが多い。昨年度はライセンシーを含め搭乗回数も、技量もそれなりの域に達した上級生が退部するのは、その原因が本人よりもむしろ、組織側にあるのではないかと考えてみる必要がある。一生懸命精進した者が、残りの年月の方が少なくなってから個人的理由でそれまでの辛抱、努力を無にすることは少ないと思うからである。指導に当たっている監督、コーチは、この辺りの事情をよく究明し、反省すべきところは謙虚に改め、今後に生かすことが大切である。退部者を出すということは、何よりも本人は不幸であり、部にとっては大いに損失である。

■政治家と官僚の劣化が甚だしい。そんな人間と組織が動かしているこの国の先行きが大いに心配である。せめて、航空部と翔友会の未来には明るい展望が見えますように・・・。

翔友 33〈非売品〉　編集　翔　友　会
2018 年 6 月 1 日　発行　同志社大学体育会航空部
印刷　同志社大学プリントステーション